

S-3 Reference 取扱説明書

この度は Reference バージョンアップをご購入頂き、ありがとうございました。
Reference 化において施した主な作業は以下のとおりです。

- ・アナログ回路の抵抗を全てネイキッドホール抵抗に変更
- ・リレーを全て RSR リレー(Reference SOULNOTE Relay)に変更
- ・LPF 回路の削除
- ・Type-R 回路、アートのさらなるブラッシュアップ
※以上、新しい Type-R 基板に載せ替えて実現
- ・クロック入力に SMA 端子を採用。
※理想的な再生のために、是非 X-3 を導入してください
- ・AC インレットの無固定化
- ・ZERO LINK 対応
- ・最新ファームへ更新

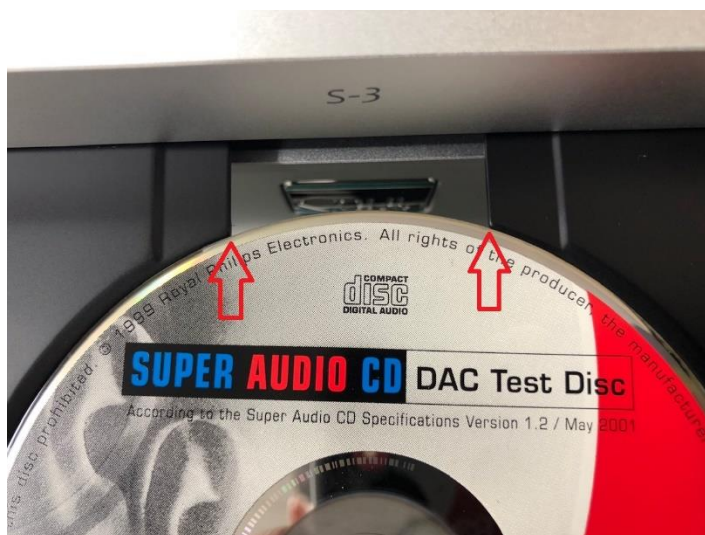
S-3 Reference になり、究極の SACD サウンドが獲得できたと自負しております。
また ZERO LINK 再生におきましても、ZEUS に肉薄する音質を獲得できました。
是非、S-3 Reference で、音源の深層に込められた魂を感じてください。

以下、取扱説明書です。

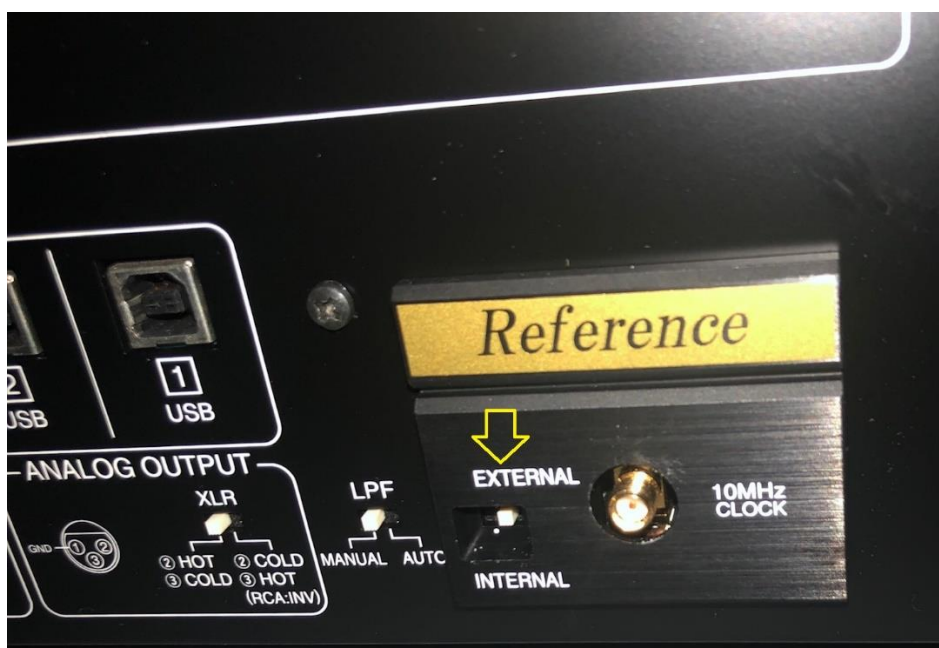
■S-3 に関しましては、音質のためはかなり攻めた設計をしております。具体的には DAC チップの DPLL を使わない単一マスタークロックによる完全同期再生にこだわっています。つまり、S-3 の内部で ZERO LINK と同じ接続を実現しているのです。そのために、SACD メカニズムの立ち上げ(0 点滅)とトック読み込み(00 点滅)に時間がかかる(長い時は 30 秒以上)場合があります。どうか気長にお待ちください。またこの時のタイミングで、非常にまれですが SACD メカニズムの立ち上げに失敗する場合があります。そんな時は、一見動いてそうで、実はキーを受け付けなかったり、トックを読まなかったり、同期が外れたりすることもあります。そんな時は S-3 の電源を入れなおして下さい。

■トレーにディスクを載せた状態で、リモコンで直接再生したい曲番号を入力すると、「トレークローズ→TOC読み込み→トラックジャンプ→再生」までを、自動で行いますので便利です。
その際、トレーボタンやプレイボタンは押さないで下さい。

■ディスクのチャッキングが不完全なまま再生しようとして、TOCを読み込めない場合があります。ディスクはトレイのセンター付近においてから少し奥側に押し、奥側の切れ込みの角2点に押し付けると、良好なチャッキングが可能です。



■クロック端子の SMA 端子化に伴い、アルミ Reference プレートが装着されています。これは SMA 端子がリアパネルから飛び出す部分をカバーして、端子を保護する目的です。そのため外部クロック切り替えスイッチが目立たなくなっていますが、X-3 を繋ぐ場合は必ずこのスイッチを External にしてください。また、X-3 を繋いだ場合には、X-3 の AC インレットが奥まで刺さっていることを確認してください。少し硬いです。



■S-3 Reference の ZERO LINK 端子は入力専用です。入力同士を接続すると故障の原因になりますので絶対に避けて下さい。INPUT は青色、OUTPUT は黄色のラベルで識別しやすいようにしています。



■LPF ボタンを押すと、LPF インジケータは点灯しますが、LPF は無効です。

■今後のファームウェアのバージョンアップは、弊社 HP からソフトをダウンロードしていただき、Windows PC と S-3 Reference を USB で接続することで可能になります。後日、HP にて詳細をアップいたします。

※ファームのバージョンは、「LPF」ボタンを押しながら電源 ON すると表示されます。

※「INPUT」ボタンを押しながら電源 ON すると、SACD メカの電源立ち上げのモードが変わります。もしも SACD の立ち上げ失敗が多いようだと、この操作により失敗を減らせる可能性があります。再びこの操作をするまで、このモードは電源を OFF しても記憶されます。またこのモードは、ファームのバージョン表示でドット(小数点)が点灯することで識別できます。

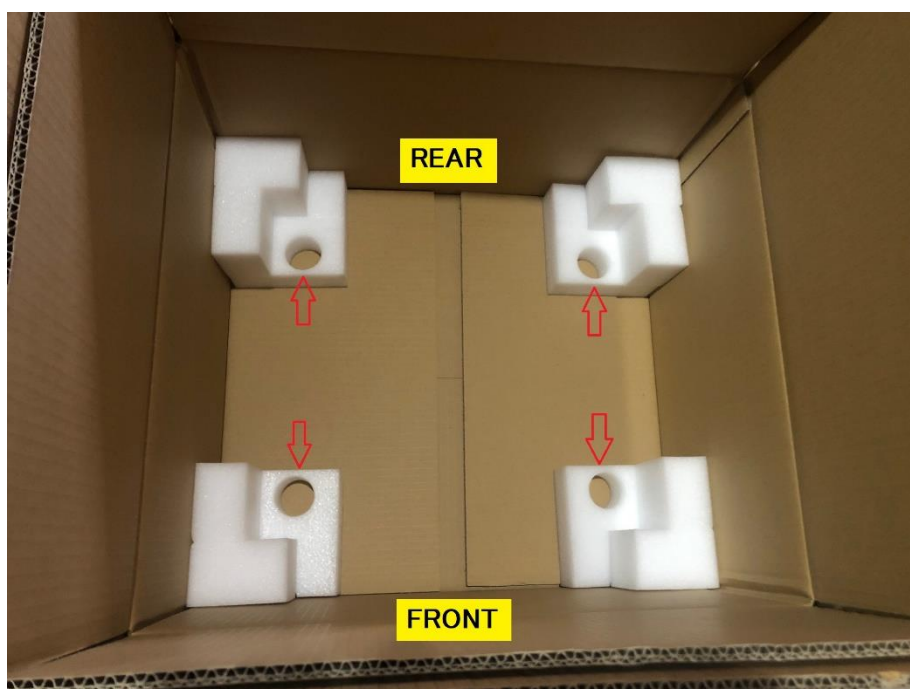
■梱包材について

コーナー用の四角い緩衝材(8個)には2種類あり、方向が決まっています。丸穴で方向が判断できるようになっています。丸穴の面が上下方向で、丸穴が端に近い方が前後方向になるようにしてください。以下、梱包の詳細な手順です。

- ① 箱の表蓋の縞々模様の方がフロント(あるいはリア)です。



- ② 4隅に緩衝材を入れます。丸穴の向きに注意してください。
丸穴が端に近い方が前後方向です。



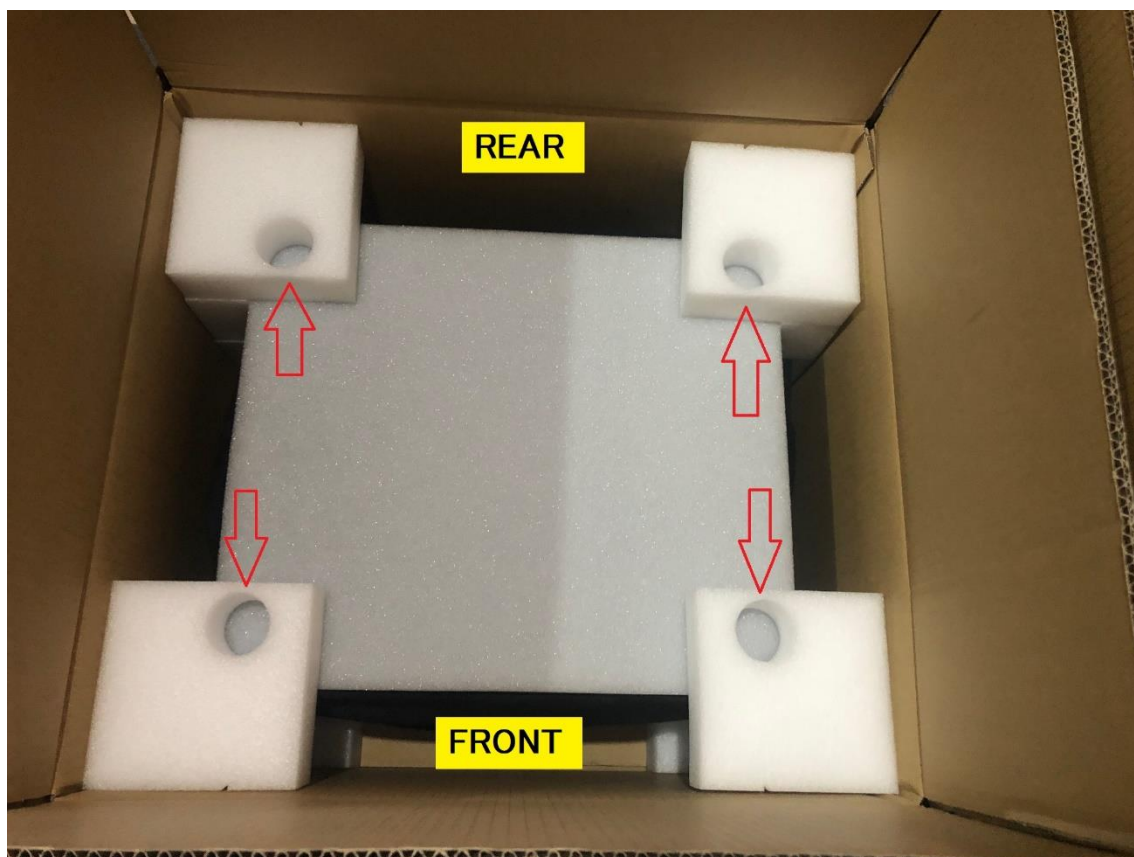
- ③ セットに黒い巾着をかぶせて、クッションの中に入れます。
※足はレンチで締めて下さい。輸送の振動で外れて暴れると、セット本体に傷をつける
場合があります。



- ④ 10mm 厚のクッションシートを乗せます。



- ⑤ 4 隅にクッションを入れます。丸穴の向きに注意してください。
丸穴が端に近い方が前後方向です。



- ⑥ 「口」形状のクッションを載せて完了です。ボードを入れる場合はここに入れます。

